世田谷少年サッカー連盟としての「育成とは」

2024 年 7 月 21 日（日）

☆リーグ戦とは

世田谷少年サッカー連盟の今後のリーグの考え方（見方）は U-08（2 年生）から U-12（6 年生）迄のトータル 5 年間と考えています。
途中参加等に関しては、U-12 リーグ以外は期毎に可能とします。
リーグの有り方と育成に関してですが、まず「育成」に関して記載します。

☆育成とは（世田谷少年サッカー連盟としては）

育成で大事なのはサッカーを「教える」「鍛える」のではなく、子どもが「サッカーを表現」できるようにすることと言われます。
指導者の皆様は、「サッカーをしっかりと教えなきゃいけない」と思っているでしょう。
ジュニアサッカーの現場では、サッカーを始めたばかりの子どもたちを、サッカーゲームの選手を操作するかのように指示し、コントロールし続ける指導者の姿がよくあります。
サッカーが楽しくて始めたはずなのに、子どもたちの多くはベンチにいるコーチの顔色を伺いながらプレーしているのです。
「なんでシュート撃たないの！」「クリアしろ！」「〇〇にパスしろ！」「もっと左にポジションを取れ！」「つぶせ！」「ちゃんとやれよ！」「……」子どもたちは怒られないようにビクビクしながらサッカーをしています。
そんな光景を見かけませんか。
これに関しては、保護者の方も同じです。

子どもたちに**サッカーを教えるよりも大切なことがあります**。
ジュニア年代の指導でとりわけ大切なことは、**サッカーを好きになってもらうこと**です。
コーチの存在によって、子どもたちが**サッカーに夢中になる**ことです。
サッカーが**楽しいと思えなければ、自ら上手くなろうという気持ちは芽生えません**。
コーチは**サッカーを好きにさせ、上手くなりたいという気持ちを育むことが大切**です。
コーチングとは、**主体性を育み、自ら気が付き、自発的な行動を促す指導法**です。

サッカーの育成年代の現場で行われているのは、**コーチングよりもティーチング**です。
ティーチングとは、**知っている人が知らない人に教える**、**できる人ができない人に教える**指導法です。
サッカーというスポーツは、ピッチに出た選手が、目まぐるしく局面が変化する中で、**自らプレーを判断**していかなければなりません。
つまり、コーチングによって**自発的にプレーできるようになる**必要があるのです。

子どもを**厳しく指導して、鍛え上げる**という発想は、**子どもの主体性、自発性を奪うリスク**があること

を理解する必要があります。
ひどい場合には**サッカーが嫌いになって辞めてしまう**子もいます。
強いチームを作って実績をつくるという**大人のエゴを子どもに押し付けてはいけません**。

子どもが上手くなりたい！　強くなりたい！　という心を育むこと、そして**適切なタイミングでコーチングをする**ことが大切なのです。
決して、大人が**成長を焦ってはいけません**。
先回りして教えて、**子ども自ら気づくチャンスを奪ってはいけません**。
時間がかかっても、**子どもが自ら気がつくこと**が、とてもとても大切なのです。

☆リーグの役割

このような指導を行うには、**自チーム内だけでの練習ではなかなか難しい**ことです。
このために、**リーグを設置**しているのです。
実力の似通った相手と戦う事で、子どもたちが**自分たちで考える場を多く作る事**が出来るのです。
このため、リーグの試合方法として１日２試合迄、続けて実施の場合も３試合迄と、**試合間を１週間空ける**ことと言う定義がされています。（東京都少年サッカー連盟の要項より）
この１週間は試合の**振り返りと共に練習**をし、**コーチングをする期間**です。
この時、指導者が答えを出すのではなく**子どもたちが考える事が大事**です。
サッカーは勝敗の有るスポーツです。
しかし、勝ためだけの練習では選手はサッカーを好きには慣れないのではないでしょうか。
選手が自ら考えられる機会を作りましょう。
点差が有りすぎる試合は**両チームにとって勉強になるものが少ない**と思われます。
このため、リーグのチーム**実力が拮抗**するように半期ごとのチーム入れ替えも必要となってきます。

☆クラブの努力

各クラブではこうした**リーグに選手が参加できる**ように、指導者・保護者の方が運営その他に**頑張って頂く事**を連盟としては期待し、お役に立てるように指導者講習会等の計画を今後も出来るだけ多く開催して行きたいと思っています。

以上